



引用文献・参考文献について

「レポートにはちゃんと参考文献を書くように」と先生に言われて、参考文献って何？ どうやって書けばいいの？ と困ったことはありませんか？

この参考文献や引用文献と呼ばれるものは、レポートや論文を書く上でとても重要な存在です。今回は「引用文献・参考文献の書き方」と題して、レポートや論文を書く上での基本的なお作法のひとつをご案内します。（ここで紹介するのは代表的なものです。実際の記述は執筆要綱などの指示に従ってください）



引用文献・参考文献の役割

引用文献・参考文献とは、論文やレポートを執筆するにあたって、自説の論拠となった考え方や研究成果を記した文献のことです。なぜ引用・参考文献が必要かというと、研究活動は全て先人の研究の上に成り立っているからです。自説を主張する上で引用・参考文献を明示して、どこまでが先人の業績で、どこからが自分の業績かを明らかにすることで、自分の成果と同時に先人への敬意をも表すことになります。

なお、引用・参考文献を明示せず、他人の意見や業績をあたかも自分の意見や業績であるかのように（そうした明確な意図がなくても、どこまでが他人の意見で、どこからが自分の意見かを判別できないように）書くのは「盗用」「剽窃」という、研究活動において最も忌み嫌われる行為です。

（もし自分が同じ目に遭った場合を考えると、絶対許せないことであると分かります）

この他、論文やレポートを読んだ人が、そこに示された引用・参考文献へ論文・レポートの著者と同様にアクセスできる必要があります。そのため、引用・参考文献を記述する際には、文献についての情報（「書誌情報」と呼ばれることが多いです）を十分に記述することが求められます。



引用文献・参考文献の記述方法(例)

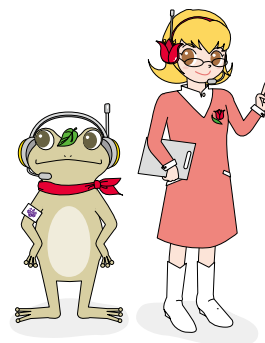
ここでは、よく使われる代表的な引用・参考文献の記述方法(スタイル)を例示します。あくまで「代表的なもの」ですので、投稿規定など特に指示がある場合には、そちらに従ってお書き下さい。

文中での引用・参考文献の記述方法(引用・参考文献情報の記述方法も含みます)

- ハーバード方式(著者の姓と発行年に基づいて記述し、文献リストを著者順に列挙する方法)
参考：<http://libweb.anglia.ac.uk/referencing/harvard.htm>

引用・参考文献情報の記述方法

- SIST 02(主に日本語を対象にした引用・参考文献の書き方)
参考：http://sist-jst.jp/handbook/sist02_2007/sist02_m.htm
- The Chicago Manual of Style (シカゴスタイル: 人文系でよく用いられるスタイル)
参考：<http://www.libs.uga.edu/ref/chicago2009.pdf>



その他、詳細は「週5図書館生活+ 引用・参考文献の書き方編」をご覧ください！

http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/pub/w5lib/ref_guide.html